

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・技の移り変わりを、当時の歴史の中で、お客様が直接体験することができます。

開館時間 9:00~16:30  
休館日 月曜日(休日の場合は開館し、翌日休館)  
年木年始(12月25日~2018年1月1日)  
臨時休館日(2018年1月4日)  
入場料 一般300(240)円 高大150(120)円  
※( )は20人以上の団体料金  
※中学生以下と65歳以上無料  
※障害者と介護者1名無料

# 大木戸

編集・発行  
千葉県立房総のむら 指定管理者  
公益財団法人 千葉県教育振興財団  
房総のむら  
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028  
TEL.0476-95-3333  
http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/

古宮木工所と房州唐箕について  
中でも、江戸時代から昭和にかけて、農具を製作し、現在も、県内にある鍛冶屋から依頼を受け、鋏の柄を製作し続けている古宮木工所について取り上げます。古宮家は江戸時代の終わり、小平治(生年不明~一八九四)が木挽きの

みなさんは農具と関くと、馴染みも無く、想像しにくいものではないでしょうか。しかし、実は今の生活には欠かせないものの一つです。間接的ですが農具がなければ、私たちが毎日食べるお米や、野菜は食卓に届きません。縁の下で私たちの生活を支えています。現在、木で作られた農具は、ほとんど見ることはありませんが、鋏の柄や、スコップの柄にみるることができます。かつては木製だった農具も、錆びにくいステンレスやプラスチックに取って代わられています。

今回の展示では、農具の移り変わりと改良を重ねてきた職人の技に焦点を当て、古代の遺跡から見つかった農具や江戸時代から現在まで続く、農具職人を紹介し、もう一度農具を見直す機会になればと思います。



## 平成29年度企画展 「農具―秘められた技―」



古宮友次郎の製作による唐箕

傍ら、機織り機を作る木工職を始め、たといわれています。それを証明するように、古宮家には一八六〇(万延元)年銘をもち、古宮家の人が作つたことがわかる、香時計が残されています。このことから、一八六〇年以前から木工職に就いていたことがわかります。古宮家が農具を本格的に作り始めたのは、明治に入ってからとされ、農具作りは小平治の息子、友次郎(一八六一~一九四〇)によって確立されました。友次郎は、依頼者の細かい要望に応えて、柄杓や灯籠、踏み台など様々な日用品を作っていました。その種類は約三十種を超えていきました。

しかし、友次郎は元々、身体が弱く、木挽きはせずに、農具や日常品を製作することで、生計を立てていました。友次郎は当時、各家で必需品であった唐箕の需要に注目し、製作にあたります。

当時、唐箕は高級品で、関東地方では、君津市亀山地方で生産され、千葉県をはじめ、関東一円に販路を拡大していった上総唐箕がありました。現在でも神奈川県や、埼玉県内の博物館に上総唐箕が残されています。

そして友次郎は、青木竹治という人物から唐箕について学びます。青木は、房州出身の唐箕の職人で、自宅に上総唐箕の職人を呼び寄せ、作らせた。これが房州に唐箕が伝わった起源です。青木は上総の職人が作る様子を観察し、自分でも作りはじめます。これが房州唐箕の起源になります。友次郎は青木竹治から唐箕作りを学び、二人は技術を競い合うようにして、お互いに改良を重ねていきます。

今回の展示にあたり、県内の博物館に資料調査に伺いました。

会場：風土記の丘資料館2階  
会期：平成29年10月7日(土)  
~11月26日(日)

ある博物館で、青木竹治が唐箕製作をはじめた時期の唐箕を見つけることができました。唐箕は上総唐箕と房州唐箕、二つの形態を良く残すもので、古宮友次郎はこれをさらに改良していきま

す。展示では房州唐箕と上総唐箕の違いなどを紹介します。今回、唐箕の構造がよくわかるように板の部分にアクリル板を貼って中の様子がわかるようにした唐箕を作りました。展示解説会やワークショップでの活用を考

えています。ほかに、農具に触れる体験やお赤飯を食べる体験、商家鍛冶屋にて農具作りの実演を予定しています。馴染みがない農具ですが、親しみがもてるような展示、イベントをご用意しております。

ぜひお越しください。  
(商家グループ 石毛)

## 関連イベント

### 講演会

「古宮系統を中心とした  
房州唐箕について」  
11月11日(土)13:30~15:00  
会場:風土記の丘資料館集会所  
講師:古宮利篤氏

### 農具に触れてみよう

①11月4日(土)13:00~15:00  
会場:下総の農家(籾摺り・脱穀の体験)  
②11月11日(土)13:00~15:00  
会場:上総の農家(籾摺り・脱穀の体験)

### せいろで蒸したお赤飯を食べよう

10月28日(土)※限定50食(無料)  
9:30~整理券配布(総屋)  
13:00~実食  
会場:上総の農家

### 農具作り(実演)

①11月18日(土)10:00~12:00  
13:30~15:30  
②11月19日(日)10:00~12:00  
13:30~15:30  
会場:鍛冶屋

### 展示解説

①10月15日(日)13:30~14:00  
②10月29日(日)13:30~14:00  
③11月12日(日)13:30~14:00  
会場:風土記の丘資料館2階展示室

※展示解説後、唐箕体験を実施します(20分程度)



協力してポテトサラダを作りました

難しい調理に、みなさん四苦八苦していました。美しうたが、美味しくなおります。

## 大人気の 農家宿泊体験

今年も、一夏休み親子宿泊一を七月十六・十七日に上総の農家で、七月二十一・二十三日に下総の農家で行いました。今年も上総・下総の両農家で三組ずつ(一組五人まで)参加者を募りましたが、応募者多数の抽選に。なんと応募倍率は上総の農家日程では約六倍、下総の農家日程では約四倍と多くの方からご応募いただきました。

今年の一夏休み親子宿泊一では、夕飯・朝食で自分が使う箸を作ったり、料理に使う塩を作ったりと体験内容が盛り沢山でした。夕食・朝食は畑で収穫したばかりの野菜を使用し、メニューを体験者の方々に考えていただきます。ガスではなく七輪を使った火加減の



お米をかまどで炊いている様子

### ★「かまどで風ご飯」体験日

上総の農家:10月15日(日)・22日(日)  
下総の農家:11月12日(日)・30日(日)

※予約体験のため、お問合せください。

が次々と作られていきました。夕飯はせいろで蒸したお赤飯ですが、朝食はかまどに火を入れて白米を炊きます。特にかまどで炊いたご飯は好評で、一はじめチヨロチヨロ中パツパ、赤子泣いても蓋取るな一の口承通りにじつと蒸らし続け、初めて蓋を開けたときには参加者のみなさんから歓声が上りました。みなさん初めて食べるかまどで炊いたご飯の味に喜んでくださったようです。

今年度の宿泊体験は終了しましたが、十月以降には房総のむらで収穫した新米を使った一かまどで風ご飯一の体験があります。こちらを読んでかまどで炊いたご飯を食べてみたいとなったという方はぜひご参加ください。

(農家グループ 長谷川)

## 龍角寺古墳群一〇一号古墳 出土品展示リニューアル

当館の第一展示室は、房総の古墳と古代の寺をテーマとし、長年大きな変更の無いまま展示されてきましたが、この夏に博物館実習生の受け入れと、来年度実施予定の第一展示室リニューアルにあわせて、ごく一部のコーナーですが、展示替えを行うこととなりました。

龍角寺古墳群は、現在一五基の古墳が確認されていますが、そのうち、何らかの調査が実施されたものは十数基、古墳全体に及ぶ調査が実施されたものはわずか六基しかありません。この数少ない古墳のうちの一基が一〇一号古墳です。そして唯一埴輪が出土した古墳です。現在では埴丘と埴輪を復元整備して公開しており、岩屋古墳と並んで本古墳群の目玉の古墳となっています。



実習生による展示替え作業風景

博物館実習生は五名受け入れ、八日間のうち四日間を資料館で行いました。



101号古墳出土資料  
新展示風景

展示替えの課題は、「五く六世紀の古墳のコーナーにある奥内出土石枕や石製模造品を二階の回廊展示コーナーへ移動。そして空いたスペースに一〇一号古墳の出土資料のうち、既に展示済みの埴輪以外の出土品の展示としました。新たな展示としては、第三埋葬施設からの出土品を中心とした鉄製大刀・鐔・鉄鏃、青銅製耳飾り、碧玉製管玉、須恵器製長頸壺・埴・埴瓶などです。

実習生は、基礎的な資料の取扱などについては、授業で学んでいますが、やはり多くの実物を手にすると多少緊張感に包まれるようです。全員が考古学専攻ではありませんが、力を合わせて展示のレイアウトを様々な方向から検討し、決定した後は、展示やキャプション作成など手分けをして作業を進め、当初予定していた時間は大幅に超えましたが、皆が納得した展

示が出来たようです。

新たな一〇一号古墳出土品の公開や貴重な石枕五点を一同に揃えた展示を是非多くの方々にご覧いただきたいと思っております。来館をお待ちしております。

(風土記の丘グループ 野口)

### 商家新規演目

## 光るどろだんご

商家木工所において、八月十一日(金)、香取市の左官職人である木村光博氏を講師に招き、「光るどろだんご」の体験を行いました。

当館では、毎年十月に「左官の技」を実施して、日本に古くから伝わる土壁の魅力を左官職人の実演と体験を通して紹介し、多くのお客様に喜んでいただいております。

土壁は、古民家や土蔵の壁に使われており、当館では商家や農家、武家屋敷、東屋などに見ることが出来ます。左官職人が一棟の家屋を建築する場合、柱の間に竹を井桁に組んでわら縄で縛り芯にする「木舞掻き」から始まり、この芯にわらを混ぜた壁土を塗る「荒壁塗り・粗塗り」を行います。この上に、砂と細かいわらを入れた壁土を塗る「中塗り」を行います。更に漆喰を



ガラス瓶で磨く体験風景

塗る「上塗り」を行って仕上げます。しかし、「左官の技」で体験できるのは、粗塗りと中塗りの体験のみでした。そこで、今年度は新たに上塗りの技術を応用した演目を用意しました。

「光るどろだんご」は「磨き漆喰」という左官の仕上げ技の応用のどろだんごを作るものです。材料は粘土に川砂を混ぜて丸めたものに砂漆喰を塗って白くした漆喰だんごと、石灰に顔料を混ぜて半日かけて裏漉しし、滑らかにした色つきの漆喰「ノロ」を使います。体験手順は①用意した三色のノロから一色を選ぶ②漆喰だんごにノロを二度塗りし、塗り残しをなくす③一度塗りが終わったら、ガラス瓶



完成した光るどろだんご

で磨く。全体から「キユッキユウ」と乾いた音がしたら完成です。体験予定時間は約二時間三十分ですが、早い人は一時間十五分ほどで完成させていました。体験のポイントは、磨く際に瓶が触れなかった凹みにノロを塗り、平らになるようにすること、一気に磨くと凹みの修復が出来ないのでゆっくり磨くことの二点です。

当日は親子での参加や、午前の体験を見たお客様が午後に参加されたり、子供が自分の作ったどろだんごを笑顔で家族に見せたりするなど好評のうちを終りました。

(園家グループ 内田)

#### ボランティア活動記

### 人を繋ぐ 「おもてなし」の心

今年の三月十一日(土)～六月十一日(日)まで行われていた「むらのボランティア活動展」では、ボランティア制度を導入した平成十六年度から今日までの活動をパネルで紹介しました。各ボランティアの活動や、ボランティアの方々へ行ったインタビュウでは、来館者に対する細やかな配慮やこだわりを、皆さんに知っていただけたのではないのでしょうか。

展示はパネルのほかに、着用しているベストやジャンパー、演目ボランティアの方が、むらの登り窯で焼成した陶器も紹介しました。今年度はツアーガイド、昔のあそび、昔のくらし、縁、演目、自然ガイド、堅穴住居の七種計五十八名のボランティアの方々にご協力いただいています。

今後とも「おもてなし」の心で、来館者と博物館を繋ぐ手助けをしていただけたらと思います。

(広報グループ 蒲生)



展示会場の様子

## 下半期の主な予定

- |                         |                            |
|-------------------------|----------------------------|
| 10月7日(土)～<br>11月26日(日)  | 企画展「農具一秘められた技一」            |
| 10月21日(土)～<br>11月19日(日) | 房総のむら 写生コンクール作品展           |
| 10月22日(日)               | 房総座「柳家三之助落語会」              |
| 11月1日(水)                | 房総のむらのお月見                  |
| 11月12日(日)               | 平安装束試着体験                   |
| 12月9日(土)～<br>2月25日(日)   | 写真展「レンズをとおした房総のむら」         |
| 12月16日(土)～<br>3月4日(日)   | トピックス展「古地図を読み解くー千葉の陸運・水運ー」 |
| 平成30年<br>1月2・3日(火・水)    | むらのお正月                     |
| 2月17日(土)～<br>3月4日(日)    | ピッキリひなまつり                  |
| 2月18日(日)                | 第4回考古学講座                   |
| 2月25日(日)                | 房総座「柳家三三落語会」               |

#### ◆編集後記◆

日が落ちるのも随分と早くになりました。むらでもあちこちから聞こえる虫の音が、秋を感じさせています。

さて、十一月三日(祝・金)に「ふるさとまつり」を開催します。当日は入場料が無料となります。毎年恒例の「もちまき大会」も楽しみたいだけです。皆様のご来館をお待ちしております。

(広報グループ 古山)